

経営比較分析表（令和4年度決算）

宮城県 宮崎市

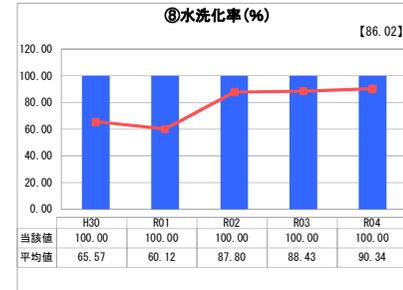
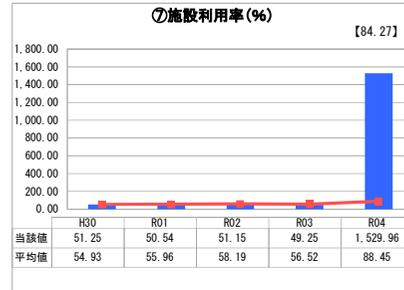
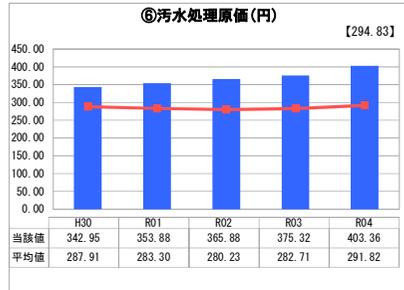
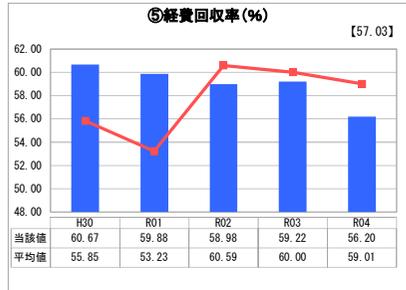
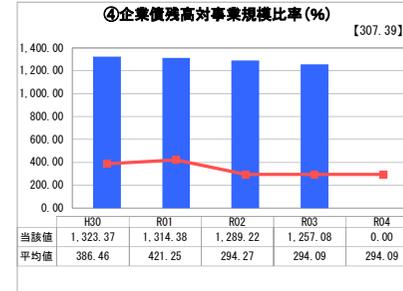
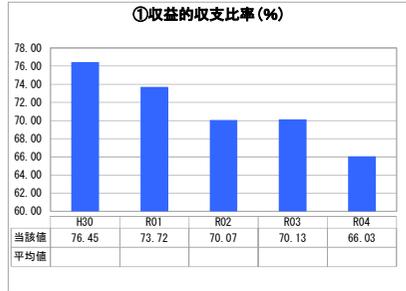
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.65	100.00	3,880

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
399,576	643.57	620.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,547	0.01	654,700.00

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

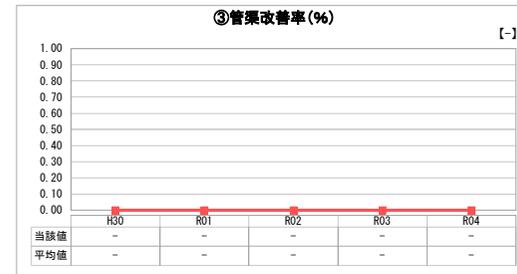
1. 経営の健全性・効率性について

- 『収益的収支比率』について
浄化槽の維持管理費のうち、清掃や保守点検、修繕費用について、年々上昇している状態です。
維持管理に係る費用の見直しや、料金のあり方について検討する必要があります。
- 『企業債残高対事業規模比率』について
企業債の償還金は一般会計繰入金にすべて依存している状態で、経営改善に向けた取組を行う必要があります。
- 『経費回収率』について
浄化槽の維持管理（清掃、保守点検、修繕）に係る経費が年々上昇傾向であり、若干平均値を下回っている状態であるため、使用料及び汚水処理原価の見直しを検討する必要があります。
- 『汚水処理原価』について
年間の有収水量の伸びを、公債費を含めた汚水処理費の伸びが上回っているため、汚水処理費の節減に努める必要があります。
- 『施設利用率』について
施設利用率について、1日平均処理水量の決算報告数値が誤っており、正しくは「47.90」と概ね例年並みとなっております。
- 『水洗化率』について
戸別設置であり、その使用量は各家庭の利用状況によりますが、使用休止状態の浄化槽も僅かであるため、問題はないと考えます。
また、水洗化率は今後も100%で推移すると見られます。

2. 老朽化の状況について

適宜、設備等の修繕を行っており、現時点で、老朽化に対する大きな懸念はありません。
しかし、浄化槽設備の軽微な修繕も増えていることから、将来的な浄化槽の更新について検討が必要になると考えられます。

2. 老朽化の状況



全体総括

平成29年度からPF1方式を導入し、効率的な事業運営を進めていますが、収益的収支比率や経費回収率は100%に満たない状態が続いております。
また、事業開始から18年が経過しており、近い将来、浄化槽の更新や、修繕では対応しきれない老朽化対策が必要になることが考えられます。
本事業は、令和6年度から公営企業会計を適用する計画ですので、まずは経営や財務状況を見える化し、当該数値をもつて経営戦略を見直すことで、経営改善の見通しをたてる必要があります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。